



年頭ご挨拶

社団法人 セメント協会
会長 徳植桂治

皆様、明けましておめでとうございます。2011年の年頭に当たりご挨拶申し上げます。

皆様には、日頃から様々なご指導ご鞭撻を賜っており、この場をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

さて最近の我が国経済は、これまで景気のけん引役を果たしてきたエコポイント等経済支援策が終了しつつあり、輸出にも減速感が見られ踊り場局面を迎えています。とりわけ大幅な公共投資の削減に加え、設備投資や住宅投資も弱含みで推移していることから、2010年度上半期のセメント国内需要は対前年5.7%減の1,980万トンになるなど、セメント業界にとって憂慮すべき状況が続いております。

このような中で、昨年11月のセメント国内販売高は、2007年6月以来、実に42ヶ月振りに対前年同月比で8.8%のプラスとなりました。久しぶりの明るい話題でしたが、民需は成長率の鈍化が予想され、引き続き公共事業費は2011年度予算でも5%削減が決まっており、私共の業界にとって厳しい状況が続くことを覚悟しなければならないものと思っております。しかしながら、2010年度第3四半期での需要からは、長く続いた経済低迷から自力で脱出すべく産業の意欲も感じられ、期待したいと考えております。

長期の需要減少に対しメーカー各社は、生産設備の休止といった生産体制のスリム化やサービスステーション、タンカーの集約化、人員体制の見直し等々、構造改革を進め、経営体質の強化を図っている所でございます。また、コスト削減のため、代替原燃料の使用を一層高めています。しかしながら、こうした取り組みによっても低収益構造は改善されておられません。あらためてユーザーの皆様のご理解と、ご協力を戴きながら販売価格の適正化を進めていくことも、重要な課題と考えています。

地球温暖化問題につきましては、産業界が心配していた「京都議定書」の延長はとりあえず回避されました。政府代表団がCOP16の場で日本の立場を

強く主張したことに対し、敬意を表したいと思います。一方で、税制大綱で地球温暖化対策のための税を本年10月から導入することが決まり、再生エネルギーの全量買取制度も24年度導入に向けて検討が進められることが閣議決定されました。

セメント業界としては地球温暖化問題にこれまでも最大限努力し、今後も取り組む覚悟でございますが、政府に対しましては、国民生活への影響、産業の国際競争力維持等の観点から幅広い検討を行い、国民の理解を得つつ政策を推進していくことをお願いしたいと考えています。

セメント協会では、景気の回復や着実なインフラ整備を引続き政府に求める一方で、「セメント・コンクリートの需要開拓」「循環型社会への貢献」そして「地球温暖化対策」を自らの重点課題として取り組んでまいります。

まず、「セメント・コンクリートの需要開拓」につきましては、需要創出の一つとしてコンクリート舗装の普及推進が挙げられます。過去2年間の調査の結果、コンクリート舗装の耐久性、ライフサイクルコスト、大型車の燃費等においてアスファルト舗装に対する優位性が確認されました。これらの結果をもとに、会員各社トップが先頭に立って各県知事や関係部長などを対象にPRを展開する、所謂、トップ・セールスを実施するなど、セメント業界一丸となってコンクリート舗装のPRに努めてまいります。なお、コンクリートのライフサイクルコストの有利性は道路だけではなく、あらゆる構造物にも同様です。コンクリートサステナビリティ、あるいはサステナブルコンクリートという観点から、新たな需要開拓に努力していきたいと考えております。

次に「循環型社会への貢献」として、セメントを供給するという動脈産業の役割に加え、廃棄物を資源化する静脈産業としての役割にも積極的に取り組んでいきます。2009年度の廃棄物・副産物の使用量は2,630万トンで、セメント1トン当たりでは451Kgと過去最高となりました。会員各社で研究開発、設備投資を継続し、廃棄物のセメント生産への活用を推進してまいります。セメント産業の需要減少、又工場の減少に対して他産業・自治体からも心配の声があります。処理の行き詰まり、即ち循環型社会システムの崩壊あるいは産業そのものの空洞化を招きかねないと危惧されます。セメント産業は、経済成長のインフロント、成熟国家のビハインドとしてビジネスモデルを深化させたいと考えております。

「地球温暖化対策」では、環境自主行動計画で「2008年度から2012年度までの5年間平均で、セメント製造用エネルギー原単位を1990年度比3.8%低減させる」との目標を掲げて取り組んでおります。2008年度～2009年度の平均では3.6%低減となっており、目標達成に向けて一層の低減に努めてまいります。

またセメント業界は、経団連が主導する2020年を目標とする新たな低炭素社

会の実行計画に参加することとしており、引き続き地球温暖化対策に積極的に取り組んで参る所存であります。一方で、セメント産業の省エネレベルは世界の先端であり、理論的にも限界に近い状況となっております。あらためてセメントコンクリート自体が有する環境負荷低減効果も含めて、スマートなマテリアルとして主張していきたいと考えております。

厳しい経済環境の中ではございますが、セメント協会といたしましては、業界一丸となってこれら諸問題の解決に取り組み、経済、産業の大きなパラダイムの変化に対応すべく世界のグリーンレース（競争）の戦列に加わるよう努力したいと考えておりますので、関係各方面の皆様方には本年も宜しくご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年はうさぎ年です。卯の刻は明け方6時ごろを指すそうです。明るい夜明けとなるべく、前を向いてひたむきに前進しようと思えます。皆様の益々のご健勝とご多幸を、そしてわが業界の発展と繁栄を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。